

盛岡大学附属松園幼稚園

令和3年度 学校評価 保護者アンケート集計結果

令和3年度に行った保護者アンケートの結果を踏まえ、学校評価と照らし合わせながら現状把握、その背景や課題について考察した。

① アンケート結果

回答記号:A=そう思う。 B=どちらかといえばそう思う。 C=あまりそう思わない。 D=そう思わない。

34/41世帯回答(回答率 83%)

	大項目	小項目	A	B	C	D
I	保育の在り方について	1 幼稚園は、教育目標(キリスト教精神に基づき、健康で明るい心の豊かな子どもを育てる。「心も体も健やかな明るい子ども」「豊かに感じのびのびと表現する子ども」「意欲を持って活動に取り組む子ども」)を意識しながら保育を行っている。	33	1	0	0
		2 幼稚園の行事は、子ども達の育ちや季節に合わせて行っている。	34	0	0	0
		3 幼稚園は、子どもの発達を捉え年間を通して計画的・総合的な指導をしている。	34	0	0	0
		4 幼稚園は、子ども達の発達を考え、環境(自然・教材・遊具・生活・・・etc)に興味や関心が持てるように工夫している。	33	1	0	0
		5 幼稚園は、子ども達の心身の健康状態を把握して保育をしている。	32	2	0	0
		6 幼稚園は、施設・遊具の安全点検に努めている。	31	3	0	0
		7 幼稚園は、環境美化に努めている。	30	4	0	0
		8 幼稚園は、子ども達一人一人の思いを大切にしながら保育している。	33	1	0	0
		9 幼稚園は、3, 4, 5歳同士の交流の中で互いの育ちを大切にしている。	32	2	0	0
II	教職員体制について	1 幼稚園の先生は、研修や研究などを行い保育の質向上のために努力している。	32	2	0	0
		2 幼稚園の先生は、明るく清潔感があり保護者に対して丁寧に対応している。	33	1	0	0
		3 幼稚園の先生は、保育について協力し合う等、チームワークが取れている。	33	1	0	0
III	保護者や地域との連携・対応について	1 幼稚園は、園便り・クラス便り・ブログ等を通して園の情報を分かり易く保護者に伝えている。	30	4	0	0
		2 幼稚園には、子育てや子どもの事について相談することが出来る。	32	2	0	0
		3 幼稚園の預かり保育は、保護者のニーズに応じて実施している。	29	4	1	0
		4 幼稚園は、保護者と連携をとりながら保育を行っている。	33	1	0	0
		5 幼稚園は、個人情報等の守秘義務を遵守している。	33	1	0	0
		6 幼稚園は、良識やマナーを持って適切な対応を行っている。	32	2	0	0
		7 幼稚園は、身近な地域や自然とのかかわりを持っている。	32	2	0	0
		8 幼稚園は、近隣の小学校と連携を持っている。	24	9	1	0
		9 幼稚園は、地域の人々との交流を大事にしている。	27	7	0	0
IV	その他	1 幼稚園は、学生の教員養成の役割を果たしている。	33	1	0	0

※ 無回答もあり

## ②令和3年度保護者アンケート結果について

### I 保育の在り方について

概ね A 回答をいただきました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら園生活を進めてきました。感染拡大を防ぐため休園措置も行いましたが、保護者の皆様のご理解ご協力によりクラスターを出さずに済みました。多大なご迷惑をおかけしたかと思えます。本当にありがとうございました。

また、例年通りの行事や園生活を行うのが難しいこともありましたが、全職員で行事の見直しや保育の内容を考えながら日々を送ってきました。園生活の見通しがつかず、保護者の皆様には、行事等のお知らせが遅れてしまったこともあったかと思えますが、いつも暖かく励ましていただきましたこと感謝申し上げます。

私達は教育目標のもと、毎日の礼拝やクリスマス礼拝の聖誕劇とおし神様に愛されていることを感じ、また、自分が家族や先生のたくさんの愛にも包まれて安心感や肯定感を持ち、伸び伸びと過ごし成長して欲しいと願い保育しています。

*I-5, B 回答について、*

子ども達の心身の健康状態に留意し、子どもの表情や活動にいつも違うところはないかと目を配り、体調不良等が見られた時には保護者の方へ連絡をしていました。友達関係や活動への取り組む様子、遊びの中等で一人一人の気持ちの有り様に寄り添い、育ちの段階を支えたりその時の気持ちを受け止め気持ちの切り替えを支えたりしながら保育を行ってきました。時には保育の中で見とれず後に保護者の方から教えていただき、園での援助につなげるということがありました。そのことは家庭と園が連携し共に考え合う機会をいただけたと思っております。

*I-3, 4 B 回答について*

安全点検につきましては、定期的に行い床修繕、雨漏り修繕、オットー砦の撤去など管財課の協力のもと行ってきましたが、施設の老朽化に追いつかない点もあったかと思えます。環境美化につきましても同様で、今後は使用しない施設として近隣の方々にご迷惑とならない様にしていきます。

### II 教職員体制について

概ね A 回答をいただきました。今後も職員一同、協力しながら保育に臨み保護者の皆様と共に子ども達の育ちを支えていきたいと思えます。

研修研究については、コロナ禍の中研修会自体が中止になり、学びの場が思う様に持てませんでしたが、リモートによる研修会には積極的に参加してまいりました。また助言の先生をお招きして学んできた様々な研修会についても、感染対策のためお呼びすることが難しい状況でした。子ども達の日々の保育や行事を安全に行っていくことが、この一年の最大の目標でした。

しかし、園内研修は継続の意思を教員間で共通にもち、定期的に保育についてと教育課程についての話し合いを行い日々の保育につなげていくよう努めてきました。令和4年度からの保育へ活かしていきたいと思えます。

### III 保護者や地域との連携・対応について

概ね A 回答をいただきました。

*III-1 について、*

日常生活の場面での子どもたちの姿や育ちについても数多くを伝えていきたいと考え、クラス便りやブログ等で発信してきました。育ちの過程の中にあるその子自身が見えてくるような工夫を今後とも行っていきたいと思えます。

*III-3 について、*

今年度は利用人数が例年より少なく、利用する子どもたちの中には寂しさを感じる子もいたのではないのでしょうか。家庭の状況に応じ安心してお子様を預けていただけるように、誕生会の日の預かり保育のおやつをクッキングの日にしたり、おやつ後の遊び方を工夫したりして楽しく過ごせる様にしてきました。今後も充実した時間となるよう努めていきます。

*III-8, 9 について、*

小学校との連携はコロナ禍で大変難しい状況です。例年行っている小学校訪問も小学生の園訪問も行えませんでした。その中、年長のあるけあるけ遠足で松園の小学校を巡ったり、小規模老人福祉施設の「ふきのとう」とのお手紙のやり取りや交流、クリスマス献金を東松園おひさまキッチンへと届けたりするなど、何か地域へ向けてできることはないかと気持ちを寄せながら“思いを届ける”そんな交流を行ってきました。「ちからこぶ」活動では、小鹿公園に何度も足を運び楽しく活動ができ、年長親子遠足では親子で小鹿公園を訪れました。園児の一人が「古銭を見つけて幼稚園に持ってくる。」という出来事があり、地域の博物館の学芸員さんに本物かどうか確認に行き、交番まで行って拾った古銭をどうすればいいのか聞きに行きました。このように、保育の中で起こる出来事を園内に留めず地域の皆さんを巻き込み、体験をとおして知る経験を大事にしました。松園地域の皆様には本当にお世話になりました。いろいろな機会に地域の皆様との交流をおこなっていることを、保護者にお伝えしていくことが必要だと考えました。

# 学校法人盛岡大学附属松園幼稚園

## 令和3年度 自己評価

令和4年3月31日

### 1、本園の教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心豊かな子どもを育てる。

- ・心も体も健やかな明るい子ども
- ・豊かに感じのびのびと表現する子ども
- ・意欲を持って活動に取り組む子ども

### 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・教育内容の充実を図る。
- ・幼大連携を図り、特色ある教育を行う。
- ・子育て支援・保護者対応を丁寧に行っていく。
- ・安全管理、安全対策に努める。
- ・令和4年度こども園移行準備を整える。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	評価	取組状況
<b>教育内容の充実を図る。</b> ・教師の資質向上のための研修 ・地域資源の活用 ・特別支援 ・子どもの育ちを保護者へ発信	<b>B</b>	<p>・厨川幼稚園の園児とともに過ごす中で、園児保育者共に刺激あいながら生活してきた。園児の登園時刻の違いや厨川幼稚園の預かり保育等の為、できることは限られたが、学年ごとの活動や遊び等での交流を楽しんで過ごすことができた。</p> <p>・園内研修において、教育課程に視点を向け子どもの姿から育ちについて意識して話し合うことができた。教育課程の見直しにもなった。松園幼稚園の教育課程編成で学んだことは今後のこども園の保育へ活かしていきたい。</p> <p>・松園地域の教育施設・環境に教師自身が関心を持ち教育に取り込んでいくことができ、子ども達の生活を豊かにすることにつながった。</p> <p>・支援が必要な子や気になる子の行動から特性や心情、行動の意味を知り、教師の視点が変化しかかわっていくことで、子どもの育ちにつながった。</p> <p>・支援計画を作成することによって、教師がPDCAサイクルを意識して保育していくことの大切さを学んだ。</p>
<b>幼大連携を図り、附属園ならではの特色ある教育を行う。</b> ・教員養成の実践の場としての役割	<b>B</b>	<p>・実習生や卒業研究の学生の受け入れ、また大学の授業への参加を積極的に行い、学生とともに学ぶことができた。</p> <p>・おひさままつり(作品展)で行っていた学生のイベントは、感</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生と幼稚園児との活動や交流</li> <li>・運動遊びの継続性と育ち</li> </ul>		<p>感染症対策の為に園内では開催することが出来なかったが、盛岡大学構内に招かれ、園児保護者とも楽しく参加することができた。創意工夫を凝らし感染対策を施し招いて下さった関係者に感謝するとともに、学生と園児の交流を今後も大切にしていきたいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びに継続して取り組むことにより、出来るようになった喜びを感じたり新しいことにチャレンジする意欲や自信につながったり、子ども達にとって楽しい活動の一つとなっていた。週に一回の運動遊び(以下「ちからこぶ」)を継続することにより、心の安定や開放にもつながっている。</li> <li>・「ちからこぶ」は保護者の関心も高く、日頃の様子や育ちなど活動の意義の発信に努めてきた。</li> <li>・コロナ禍で感染症対策のため、人数制限を設けたため学生に学びの場は例年のように提供できなかった。また、大学と連携して行ういくつかの研修も計画通りにはできなかった。</li> </ul>
<p>子育て支援・保護者対応を丁寧に行っていく。</p>	<p><b>B</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を取りながら、園児やその保護者にも寄り添い、丁寧にかかわっていくことができた。</li> <li>・日々の遊びの中にある学びや育ちを短期的にだけでなく、長期的見通しを持って伝えていくことが大切であると感じている。</li> </ul>
<p>安全管理、安全対策に努める。</p>	<p><b>A</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、2度休園措置を取ったが、大学のウェルネスセンターと連携しながら感染拡大を最小限にとどめる事ができた。しかし、日々変異する新型コロナウイルス対応に、保護者対への対応も変化していくため、感染対策についての保護者への周知が難しかった。</li> <li>・衛生管理については、エアロピュア(除菌空気清浄機)を取り入れたことが消毒作業の軽減に繋がった。</li> <li>・幸い大きな事故には繋がらなかったものの、受診が必要な怪我が散見した。子どもの発達段階や遊びの変化に合わせて安全に配慮していく必要がある。</li> </ul>
<p>令和4年度子ども園移行準備を整える</p>	<p><b>B</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けての保護者説明会を数回行い保護者の理解を得てきた。その際、保護者より様々なケースの質問をいただき、新園に対する不安が強いことを改めて感じた。保護者からの問い合わせについては丁寧に回答し、不安軽減に努めてきた。</li> <li>・厨川、松園両園が統合して一つの園となることを踏まえ、一緒に生活をしながら園児、保育者とも交流をもち次年度へつなげていく必要があった。保育について語り合いより良い保育を目指していくよう努めていきたい。</li> </ul>

#### 4、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園に対する保護者の満足度の把握	・建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。
認定子ども園開園 教育・保育の充実	・令和4年度は、園の教育理念や教育目標について園長や教職員間で話し合い、より良い保育を共に目指していくことが必要である。 ・未満児保育について学んでいく機会を作っていく事が急務である。 ・新しい生活が始まる保護者の不安に寄り添い、子ども一人一人が安心して伸び伸びと園生活が送れるよう一層の配慮に努める。
認定こども園開園	・令和 4 年度こども園開園に向けてハード面ソフト面とも両園共に準備を進め新年度スタートを目指す。 ・保護者説明会において、来年度のことについて説明会を開き、丁寧に対応したい。できるだけ決定したことを早めに伝えていくよう努める。
特別支援教育	・年々支援を必要とする幼児が増えてきている。保護者からの要望の有無と共に、その子に対応した指導計画を基に教育にあたる。医療・福祉の関係機関との連携について検討したい。
安全管理	・新園での様々な安全対策を準備するとともに、マニュアルを作成し教職員の共通理解をはかって教育保育を行っていく。 ・新園舎での生活の中で、職員や子どもたちと安全で楽しい生活を作り上げていくことを共に楽しんでいきたい。

#### 5、学校関係者の評価

日 時 令和4年6月3日～10日

評価方法 書面

《評価内容》

<p>1 教育内容の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の話やおたよりで子ども達の様子が伝わってきた。</li> <li>・取り組み状況を拝読すると、どの取り組みも計画通り行われているように思われる。</li> </ul> <p>2 幼大連携を図り、附属幼稚園ならではの特色ある教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学でのおひさままつりはとても楽しかったのでまたやって欲しいと思った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症による未達成は外的要因であり園の責任とは言えない。その点を除くと、どれも計画通りに実施できたようである。</li> </ul> <p>3 子育て支援・保護者対応を丁寧に行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの先生も話しやすく優しい方々で小さな話でも丁寧に聞いてくださり保護者に対応していた。</li> <li>・どの様な取り組みを行い、どの様な結果が得られたのか。その評価について具体性が欠けている。</li> </ul> <p>4 安全管理・安全対策に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のクラスターを出さずに予定通り行事をしていただけた。</li> <li>・幼児の怪我が増加したこと、保護者への周知不足(感染症対応について)があったとのことから、今回の自己評価結果はどの様な判断からか。</li> </ul> <p>5 令和4年度こども園移行準備を整える</p>
---

- ・準備不足や課題が残るとすれば今回の自己評価結果はどのように導きだされたのか。
- ・新園に関しての保護者説明会と実際の話との違いに戸惑い、不安はあったと思われる。

#### 6 その他

- ・学校評価を考える上で PDCA サイクルは自明であり、統合により閉園した園の学校評価がどのようにつながるかを盛岡大学附属松園幼稚園の教育内容の総括と、その上でひきつぐものがどのようなものであるかを捉えていかないと、この評価の意味がなくなると考える。
- ・園による自己評価と取り組み状況に齟齬があり、評価が主観的な印象により行われていないか。評価を客観的に行うには計画を具体的に設定されていることが重要である。改めて確認をしてみてもどうか。
- ・「附属幼稚園ならではの特色ある教育」とは、どのような教育理念によるものであるのか。幼児のための附属園独自の特色ある教育を明確にしていくことを期待し、その一連の過程である研究・実践とその成果を発信することが大学附属に課せられている社会的使命と考える。

#### 6、財務状況

公認会計士の監査により適正に運営されていると認められている。